

【機関情報】

# 社会教育



## 家庭教育支援者地区別研修



## 家庭教育応援企業 企業内学習会



## CONTENTS

- ◆ 特集 ..... 1  
「地域で支える家庭教育応援事業」
- ◆ 論説 ..... 3  
「コロナ禍における 子育て家庭の現状から考える」  
福島県地域家庭教育推進協議会委員長  
桜の聖母短期大学講師 長谷川 美香 氏
- ◆ 輝け！社会教育 ..... 4  
高橋 明子 氏（喜多方市）  
西会津町家庭教育相談室「こころのオアシス」  
福島市飯坂学習センター、泉崎村中央公民館、  
只見町立明和小学校父母と教師の会  
いわき市立久之浜中学校PTA  
南相馬市立中央図書館  
おはなしボランティア「ゆめこじ」（大玉村）
- ◆ 令和3年度 社会教育関係各種表彰受賞 ..... 10  
令和4年度 福島県社会教育施設行事予定 ..... 10



# 特集 「地域で支える家庭教育応援事業」

特集では、県の取組である「地域で支える家庭教育応援事業」について御紹介いたします。

県では、家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、連合PTA等と連携し、親子の学びを応援する講座や企業と連携して家庭教育について親自身が研修会を行い、地域の家庭教育の充実を推進しています。

また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムの活用をすすめるとともに、地域で子育てをする親を支援する家庭教育支援者の養成・育成をする研修会も行っています。

さらに、令和3年度より、地域の実情に即して、学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援する「福島県家庭教育支援チーム」の登録制度を設けました。

## I

### 家庭教育応援プロジェクト

～ 学校・家庭・地域が連携し、家庭教育を推進する取組を支援 ～

- (1) 福島県地域家庭教育推進協議会（年2回）  
県における家庭教育の推進や地域教育力の向上に向け、総合的な協議をする。
- (2) 地域家庭教育推進各地区ブロック会議（各地区 年2回）  
各地区の家庭教育の現状等を整理し、関係団体等との連携により家庭教育の推進を図る。
- (3) 親子の学び応援講座  
各地区のPTA連合会等を対象に講座を行い、親の学び・家庭での実践活動を支援する。
- (4) 家庭教育応援企業推進活動  
家庭教育の推進に取り組む企業を募集し、企業と連携し、地域の家庭教育を推進する。  
要望に応じて、企業内において家庭教育に関する研修会等を開催する。



## II

### 家庭教育応援リーダー育成事業

～ 家庭教育支援者のリーダーを育成するための研修会を実施するとともに、学習プログラムを生かした研修を行うなどして、家庭教育支援者の実践力の向上を図る ～

- (1) 家庭教育支援者全県研修（年1回）  
県内の家庭教育支援者の実践力を高めるとともに、地域の家庭教育支援者をリードしていく人材を育成する。
- (2) 家庭教育支援者地区別研修（各地区1回）  
地域の実態に応じた研修を行い、家庭教育支援者の実践力を高めるとともに、家庭教育に興味のある方が新しく家庭教育支援者となるための研修の機会とする。
- (3) 福島県家庭教育支援チーム **NEW!**  
不安や悩みを抱えている家庭（特に、支援が行き届きにくい家庭への支援が中心）を対象に、地域において主体的に家庭教育支援の取組を行う「福島県家庭教育支援チーム」の登録を行う。





すべての保護者が安心して家庭教育を行うためには、学校や行政機関とは異なる身近な地域住民としての立場から、家庭をサポートしていくことが効果的です。福島県教育委員会では、**県内全域で家庭教育支援チームが活動を展開できるようにすること**を目指しています。

## 家庭教育支援チームとは？

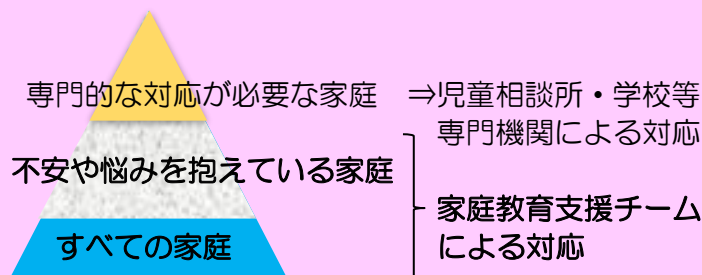
身近な地域での様々な取組や講座等の学習機会の提供や親子で参加する行事の実施、子育てや家庭教育に関する相談対応や地域の情報等の提供を行います。状況に応じて、学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉関係機関と連携・協働しながら、子育てや家庭教育を支援します。

## 構成員は？

地域の実情に応じて、子育て経験者をはじめとする地域の多様な人材で構成します。

家庭教育支援チームでは、専門的な対応が必要な家庭ではなく、「不安や悩みを抱えている家庭」や「すべての家庭」を対象としています。

## 支援対象イメージは？



## 家庭教育支援チームの活動内容

家庭教育支援チームは、学校、公民館、市町村教育委員会等を活動拠点として、子育て学習会や、親子参加型の行事などの支援活動を行います。また、チーム員が家庭を訪問して個別の相談対応や情報提供を行うことも考えられます。

地域の実情や保護者からの要望、チーム員の得意分野に応じて、こうした活動の中で、できるものから始めていくことも可能です。

- 学びの場(学習機会)の提供
- 地域の居場所づくり(親子参加型行事等の実施)
- アウトリーチ型家庭教育支援(保護者や子どもの居場所に向いて届ける支援)
- 情報提供等

## 福島県家庭教育支援チームの紹介

令和3年度より登録がスタートした「福島県家庭教育支援チーム」には、現在(令和4年3月1日)次の8団体が登録しています。

- ◇家庭教育インストラクター県南の会
- ◇福島県家庭教育インストラクターさざ波の会
- ◇福島県家庭教育インストラクター会津さざなみの会
- ◇西会津町家庭教育支援チーム“こころのオアシス”
- ◇喜多方市家庭教育支援チーム“もも”
- ◇須賀川市家庭教育インストラクターの会
- ◇さくら並木の会(石川町)
- ◇あいづCAP(喜多方市)

詳しくは、[こちら](#)





# 「コロナ禍における 子育て家庭の現状から考える」

福島県地域家庭教育推進協議会委員長  
桜の聖母短期大学講師

**長谷川 美香 氏**



新型コロナウイルス感染症の影響により、子育て家庭は大きな影響を受けている。どういった影響が出ているのか様々な調査がされているが、それらを見ると、大きく二点の影響が出ている様に思う。

一点目は「子育て家庭の孤立」である。学童（放課後児童クラブ）や、子育て広場、サークルといった地域で子育て家庭を支えていく場も休みとなることがあり、保護者が支援者（スタッフ、保育現場や学校の教職員等）や、他の保護者と繋がりをもちにくい状況となっている。支援者側も短時間の実施をしたり、オンラインを利用したりと、子育て家庭との繋がりが途切れない様に試行錯誤しながらアプローチを続けているが、新型コロナウイルス感染症の状況が悪化すれば、思う様にいかないこともある。

二点目は「性別役割分業の顕在化」だ。令和3年版厚生労働白書では、コロナ禍で特に女性への負担が増していることが分かる。女性だけでなく男性も家事や育児の負担は増えているが、女性の家事、育児負担の増加、生活全体の満足度の低下は男性に比べて大きい。社会全体で、子育て家庭における働き方、意識の変革が必要である。

そしてこれらは、現代の子育て家庭の現状、課題であることが、新型コロナウイルス感染症の影響によってさらに深刻になったとも考えられる。

私が勤務している短期大学の教え子達は、卒業後、保育者として働いているケースが多い。彼女達に、保育現場における新型コロナウイルス感染症の影響について聞くと、中には大きな不安を抱える保護者もいると話し、「子ども、保

護者が少しでも安心感が持てる声掛けをする様に心掛けている」、「以前に比べ、保護者が園での子ども姿を見る機会が減っているため、具体的に子どもの様子を伝える様に努めている」と話していた。また、同時に「換気や消毒等、普段から気を付けることが増えたり、行事の中止や縮小をしたりと自分達も大変である」、「保護者が園に来る機会が減っている中で、子どもの成長を保護者に対してどう『見える化』していくかが難しい」、「密を避けなければいけないが、保育現場で完全に密を避けることは困難である」、「マスク着用のままでは、食事の際、よく噛むことを伝える場面で保育者が噛む様子を見ることが出来ず、子どもが保育者の表情を読み取りづらいため、フェイスシールドも併用している」といった声も聞かれた。

私達は、つい、支援される側の支援をどうするかといった点に目が向きがちだが、子育て家庭への支援と同時に、子育て家庭を支援する側の支援も必要になってくるだろう。

## プロフィール はせがわ みか

2000年 東京女子大学文理学部社会学科卒業  
2016年 福島大学大学院地域政策科学研究科  
修了

現在 桜の聖母短期大学生活科学科講師、  
福島県地域家庭教育推進協議会委員長、福島  
市社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員等  
を務める。

### 論文

「新型コロナウイルス感染症が保育者に与える影響－領域『人間関係』の視点から－」  
(桜の聖母短期大学紀要第45号2021年)等

# 輝け！ 社会教育

令和3年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

## 社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

前喜多方市社会教育指導員 高橋 明子 氏（喜多方市）

栄誉ある賞をいただき大変光栄であり、身が引き締まる思いです。皆様のご指導のおかげと、心から感謝しています。

私は平成12年から17年間ほど、当時の山都町公民館で社会教育指導員として勤務しました。上司や同僚をはじめ、地域の皆様から、社会教育の楽しさと厳しさを教えていただきました。家庭教育や読書活動など多くの研修の場があり、学んだことを公民館で実践して地域の方に伝えたいと、試行錯誤したことはとても貴重な経験で楽しかったです。

現在、コロナ禍での活動やSDGsへの取り組みなど、新しい生き方を考える中で、社会教育の担う役割はますます多様で重要だと感じます。子どもから高齢者まで、誰もが一歩進んで社会と関

わるために、学校・家庭・地域・行政などの枠を超えてコーディネートできる環境を整えたいものです。

率直に言って私自身、今後どう社会教育に関わることができるのか不安です。でも社会教育に引退は無いのだと、改めて思います。不安を抱えな

がらも自分がどう生きるのか問いかけ、自分にできることを行動しようと思っています。それが少しでも、お世話になった方々への恩返しになれば幸いです。



令和3年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰

## 西会津町家庭教育相談室「こころのオアシス」の活動紹介

西会津町家庭教育相談室「こころのオアシス」

「こころのオアシス」は平成29年9月から地域学校協働活動事業の家庭教育支援として、家庭における教育力の向上と孤立を防ぐことを目的に活動が始まりました。

西会津町は人口の減少に伴い教育機関が統合され、現在はこども園・小・中学校が隣接して設置されております。その多くの子どもや保護者が往来する小学校の一角に「こころのオアシス」があります。「学校にあって学校でない」をモットーに相談者が気軽に立ち寄れる場所になれるように心掛けています。私たちは、相談者の話を丁寧に傾聴し、必要があれば関係機関に繋げて問題解決のお手伝いをしています。



また、不登校に悩む家庭には学校と連携し、登校のワンステップとして利用されています。このような相談業務のほかに保護者への学習機会やイベントも実施しています。さらに時間がなくて足を運べない保護者には企業訪問を行い「届けたいところに確実に情報を届ける」ことも大切にしています。

このたび文部科学大臣表彰をいただき、大変光栄に思います。これは日頃から連携し協力を惜しまない仲間みんなでの受賞です。

これからも子どもに寄り添い保護者に伴走しながら温かい活動をしてまいりたいと思っています。



# 輝け！ 社会教育

令和3年度優良公民館文部科学大臣表彰

## 福島市飯坂学習センターの活動紹介

福島市飯坂学習センター

### 飯坂地区について

飯坂地区は福島市街地から北西約11kmにあり、市面積の約36%を占め、旧6町村を抱える市内で最も広い地区です。また、飯坂温泉は秋保・鳴子と並んで奥州三名湯に数えられています。

学習センターの事業展開に際しては、面積が広いため、ともすれば希薄になりがちな住民相互のつながりや共助精神の醸成を重視しています。

### 1 市民学校「防災キャンプ」

震災を知らない子供たちを対象に、災害に対する心構えを学習することを目的に平成29年度から実施。避難所設営や「サバイバルめし」体験など、地域の方々の協力をいただきながら実施しています。



### 2 ふるさと学びカレッジ

#### 「男性チャレンジスクール」

男性シニア層の新たな生きがいづくりや、地域参加へのきっかけづくりの一助とすることを目的に平成27年度から実施。地域の歴史散策や料理教室など多彩なプログラムを提供しています。



### 飯坂学習センターが目指すもの

社会情勢の変化や新型コロナの影響により、人と人のつながりが希薄になっていく中、地域の皆さんが学習センターに集い、「まなび」を通して「つながりあう」ことで、地区の人々が地元を誇りを持てる魅力のあるまちづくりになる活動を展開してまいります。

令和3年度優良公民館文部科学大臣表彰

## 泉崎村中央公民館の活動紹介

泉崎村中央公民館

泉崎村は豊かな緑と田園風景に囲まれ、時代に合わせた企業の誘致や住宅地の整備、福祉に力を注いできました。当公民館では余暇時間の増加と高齢化の進行の中で生きがいづくりに重点をおいた事業を進めてきました。

### ●成人学級

学ぶ機会のない高齢者の方々を対象に、

- 1 心身の健康を保ち日常の生活に役立てる。
- 2 教養を高め趣味豊かに生きがいを高める。
- 3 学級生相互の親睦を深め社会的能力を高める。

以上を目標に開講されています。5つのクラブに分かれ、民謡、カラオケ、押し花、歴史探訪、絵手紙を受講しています。月に1回の開



催ですが、常に出席率が高く、公民館事業で1番の人気講座です。

### ●鳥峠の自然を守る会（公民館協力団体）

小学校や幼稚園及び、地域住民を対象に自然観察会等を数多く実施し、ふるさとの自然に触れ、豊かな感性と郷土愛を育てています。新型コロナウイルス感染状況により中止となってしまいましたが、毎年「かたくり祭り」を実施し、村民の交流の場と、地域の活性化を推進しています。

今後も泉崎村教育振興計画「人生100年時代を見据えた多様なニーズに応じた学習の推進」を基本に公民館活動を進めていきます。



# 輝け！ 社会教育

令和3年度優良PTA文部科学大臣表彰

## 只見町立明和小学校父母と教師の会の活動紹介

只見町立明和小学校父母と教師の会

この度、栄えある「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞できましたことは、大変光栄なことであり、関係各位の皆様には感謝申し上げます。

明和地区の保護者並びに地域の方々には本会設立当初より、「子供たちのために、学校のために」という思いを伝統的に受け継いでおり、本部役員、地区委員、学級委員の他、専門委員として文教委員、厚生委員、安全委員の何かしらの組織に父母関係なく多くの会員が所属し、意欲的・積極的に活動を推進しています。

特に、本校の特色ある教育活動である地域伝統芸能発表会に向けて「小林早乙女踊り」や「梁取神楽」の練習に保護者や地域の方々が指導者として携わっています。



また、年3回の「スキー学習」や放課後の「クロスカントリースキー練習」の活動においては、指導者や運営役として多数の会員が協力しています。さらに、令和2年度に校庭で開催した「明和っ子雪まつり」では、学年委員が中心となって雪像づくりに参画したり、花火大会を企画したりして学校や地域を盛り上げ、「地域と共にある学校づくり」の具現に向けて取り組みました。



今後も学校と家庭・地域の連携を図り、子供たちを健やかに育成することができるよう、更なる教育の充実に向けて努めてまいります。

令和3年度優良PTA文部科学大臣表彰

## いわき市立久之浜中学校PTAの活動紹介

いわき市立久之浜中学校PTA

本校PTAは、保護者や地域が願う「目指す子どもの姿」について考えるため、平成20年度に設立した「久之浜中学校区小中連携推進協議会」の事務局校PTAとして、保護者と学校の意見・要望を踏まえた共通実践に取り組んでいます。全保護者が各種常任委員会のいずれかに所属し、義務教育を小中9年間のスパンで捉え、継続的・系統的な指導を支えています。

PTAと学校が協力し、行っている主な取り組みとして、まず一つ目に、キャリア教育の一環で行っている総合学習があります。「ふるさつを見つめ直し、私たちの未来を展望しよう」をテーマに、公民館と連携し、地域住民



や団体の協力を得ながら久之浜地区の特色を生かした体験学習（郷土料理、大漁旗製作、震災学習等）に取り組んでいます。

二つ目に、1968年に学区内でフタバズキリュウの化石が発見されたことを踏まえ、PTAと学校、市アンモナイトセンターの連携により、地域を学ぶ取り組みとして「化石講座」を開催しています。

令和2、3年度はコロナ禍ではありましたが、学校とPTA役員が話し合い、保護者の理解や協力体制が得られるように働きかけ、できるだけ通常の形での行事等が行えるようにするなど学校、地域と連携して活動しています。



# 輝け！ 社会教育

## 令和3年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰 南相馬市立中央図書館活動紹介

南相馬市立中央図書館

この度、南相馬市立中央図書館が、文部科学大臣表彰を受賞できましたのは、ひとえに読書活動推進事業にご支援、ご協力いただいている関係者の方々、地域の皆様のおかげであると職員一同、心より感謝申し上げます。

当館では、平成21年12月の開館当初から児童サービスを重点施策に掲げて、子どもの成長に合わせた資料収集やサービスを展開しています。令和3年3月には、「第三次南相馬市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの発達段階に応じた読書活動を推進しています。10か月児健診時のブックスタート事業をはじめ乳幼児・児童向けのブックリストの作成と配布、「おはなし会」の開催。また、「英語と日本語での読み聞かせ」や



「図書館バック教室」等のイベントの実施。これらは、親子で読書に親しむ機会をつくり、子どもたちが図書館を利用するきっかけになっています。

また、学校図書館支援として、学校司書、司書教諭や図書館担当教諭と連携することで、授業で利用する以外にも子どもたちが集まる学校図書館の環境づくりにも努めています。

これからも当館では、子どもたちが読書の楽しさを実感し、生涯にわたり望ましい読書習慣を身に付けられるよう、まちの図書館としての役割を果たして参ります。



## 令和3年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰 おはなしボランティア「ゆめこじ」の活動紹介

おはなしボランティア「ゆめこじ」（大玉村）

この度は栄えある文部科学大臣表彰をいただき、会員をはじめ、今後の活動にも励みとなる思いであります。

当会は、平成16年4月に教育委員会事業を契機に読み聞かせボランティア団体へと発展し、企画・運営全般を実施しています。令和3年で17年目を迎えます。会員数は15名です。

「おはなし会」では、本の読み聞かせを中心にかんたん工作や手遊び、季節の歌など楽しい時間を子どもたちと一緒に過ごしています。



独自の取組として「年中行事再現」があります。これは、昔ならどの家庭でも行われていた「節分」や「端午の節句」などの伝統行事を現代の家庭へ継承し、再現していただくことを目指しています。行事の由来についての読み聞かせの後、親子で豆まき体験やお団子・かしわ餅づくりを楽しみます。

今後も「ゆめこじ」の名のとおり、「ゆめ＝夢」をもって、「こじ＝こじはん（方言でおやつの意味）」のように誰でも気軽に参加でき、演じ手も参加者も一緒に楽しめる会の運営を心掛けていきたいです。





# 令和3年度 社会教育関係各種表彰受賞

表彰区分	被表彰者氏名・団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	前 塩川町社会教育委員長 佐藤 一男 氏 (喜多方市) 前 喜多方市社会教育指導員 高橋 明子 氏 (喜多方市)	11月5日	文部科学大臣
「家庭教育支援チーム」の活動の推進	家庭教育相談室「こころのオアシス」(西会津町)	2月4日	文部科学大臣
優良公民館	福島市飯坂学習センター 泉崎村中央公民館	2月4日	文部科学大臣
優良PTA	只見町立明和小学校父母と教師の会 いわき市立久之浜中学校PTA	11月19日	文部科学大臣
子供の読書活動優秀実践図書館・団体(個人)	【図書館】南相馬市立中央図書館 【団体】おはなしボランティア「ゆめこじ」(大玉村)	4月23日	文部科学大臣
社会教育功労者	前 福島県立博物館長 赤坂 憲雄 氏 郡山市家庭教育を支援する会会長 津田 智 氏 福島県婦人団体連合副会長 石川 美知 氏	11月1日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	【団体】福島市立飯野中学校父母と教師の会 郡山市立熱海小学校父母と教師の会 南会津郡南会津町立田島小学校父母と教師の会 【施設】福島市三河台学習センター 国見町公民館 須賀川市大東公民館	11月1日	福島県教育委員会
全国社会教育委員連合	西白河地区社会教育員連絡協議会 鈴木 雅文 氏 相双地区社会教育委員連絡協議会 江井 俊雄 氏	10月28日	(一社)全国社会教育委員連合
日本PTA全国協議会	【団体】福島市立飯野中学校父母と教師の会 いわき市立御厩小学校PTA 【個人】前福島県PTA連合会副会長 大内 広行 氏 前福島県PTA連合会副会長 石井 洋平 氏	10月19日	(公社)日本PTA全国協議会
東北地区社会教育委員連絡協議会	安達地区社会教育委員連絡協議会 大戸 隆 氏 田村地区社会教育委員連絡協議会 穴戸美恵子 氏 西白河地区社会教育委員連絡協議会 橋場八代子 氏 西白河地区社会教育委員連絡協議会 圓谷 武 氏 両沼地区社会教育委員連絡協議会 齋藤 康徳 氏 相馬地区社会教育委員連絡協議会 佐藤 葉子 氏	10月14日	東北地区社会教育委員連絡協議会

## 令和4年度 福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
○「福島を生きる」連続講座と関連展示 ①福島県歴史資料館学芸員による講座(10月) 「資料で読むドラマの主人公たち 五代友厚・渋沢栄一・古閑裕而」関連展示 10/7(金)~11月上旬 ②福島県文化財センター白河館学芸員による講座(11月) 「戦後ふくしまの考古学」関連展示 11月上旬~11/30(水)	○写真展 岩合光昭の世界のネコ歩き2 & どうぶつ家族 令和4年3/19(土)~5/22(日) ○東北へのまなざし1930-1945 6/4(土)~7/10(日) ○特集展示 みんな大好き!福島ねこづくし展 7/23(土)~8/21(日) ○生誕100年 朝倉 摂展 9/3(土)~10/16(日) ○没後200年 亜欧堂田善展 10/29(土)~12/18(日) ○福島アートアニュアル2023 1/28(土)~3/5(日)	○アンモナイト合戦 4/23(土)~6/26(日) ○新撰組展2022 7/23(土)~9/19(月・祝) ○名君の大名文化 10/7(金)~12/4(日) ○写真展 福島、東北 1/21(土)~3/19(日)	○郡山自然の家 春のオープンデー5/29(日) ○会津自然の家 春のオープンデー5/22(日) ○いわき海浜自然の家 春のオープンデー5/29(日) ※その他詳しくは、各自然の家のホームページをご覧ください。

### 編集後記

社会教育第342号のテーマは「みんなで支える家庭教育支援」でした。少子化による人口減少や高齢化、核家族化等による地域とのつながりの希薄化に加え、コロナ禍の影響により社会の在り方が大きく変化しています。「家庭教育」についても、家庭の孤立化、子育て不安や虐待問題など、様々な問題が増大により、地域や社会全体での支援の必要性が高まっています。そうした状況において、県では、家庭や地域の教育力の向上を図り、すべての保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉機関が互いに連携し、家庭教育を支援するための事業を一層充実させていくことができるよう取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、日々御活躍されている方々から、お忙しい中、第342号「社会教育」に御執筆をいただきましたことに対し、心から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの地域や立場でより一層御活躍されることをお祈りいたします。



令和4年3月吉日発行  
社会教育 No. 341  
編集 社会教育課  
発行 福島県教育委員会  
福島市杉妻町 2-16